

状況についても読者の注意を喚起したい。

引用文献

神谷 要・國井秀伸, 1995. 鳥取県弓が浜半島で確認したボタンウキクサの越冬 水草研究会会報 (57): 22-23.

【付録】

標本記録 (OSA収蔵): 大阪府堺市浜寺諏訪森 (栽培), H. Yamamoto 105688 25-viii-1994 (開花個体), 116424 14-ix-1995 (実生に由来すると推測される幼個体), 12007 28-x-1996 (実生).

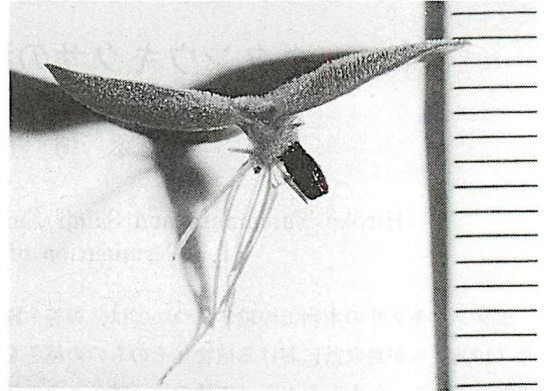


図2 横からみたボタンウキクサの実生。胚軸部分に種子がつながっているのが見える。

水草研究会第18回全国集会報告

水草研究会の第18回全国集会が8月3日(土), 4日(日)の両日, 富山県富山市の富山市科学文化センターなどを会場に行われた。参加者は95名であった。

初日の8月3日は, 総会, 研究発表会, 懇親会が行われた。研究発表は, 水草についての様々な分野から, 14題の発表があり, たいへん密度の高いものであった。途中, スライド投影機にトラブルが発生して, 発表会の進行にご迷惑をおかけした。あらためてお詫び申し上げる。

研究発表会

1. 津久井公昭・山崎正夫 (東京都環境科学研): 酵素電気泳動法によるミクリ科植物の判定
2. 村山恵子・角野康郎 (神戸大理学部): 日本産コウホネ属: 分類はどこへゆく?
3. 西村由布子・田中修 (甲南大理学部): イボウキクサ (*Lemna gibba* G3) の再分化
4. 別府敏夫 (帝京科学大): アオウキクサ類の系統進化
5. 加崎英男 (都立大学・名誉教授): 日本湖沼における車軸藻類の再調査 (続)
6. 近藤洋一 (野尻湖ナウマンゾウ博物館)・樋口澄男・川村実・関久人 (長野県衛生公害研)・野崎久義 (東京大)・渡辺信・加崎英男 (国立環境研)・金井紀子 (上田養護): 野尻湖におけるホシツリモの再生と環境

教育

7. 桜井善雄 (応用生態学研): ヨーロッパにおける水域管理と植物の生育立地の保全
8. 丸井英幹・梅原徹 (環境設計): 淀川のヨシ群落
9. 内山寛・島崎肇・小山鐵夫 (日本大生物資源): 境川・引地川水系 (神奈川県) の水草
10. 上原公子・倉本宣・倉科明子・佐藤節子・高橋福子 (矢川水質調査会): 矢川における水生植物の年間変化と分布状況
11. 荒金正憲 (別府大学短大部): 小田の池湿原 (大分県湯布院町) の植生とフロラ
12. 松井宏明・佐々木英代 (環境調査技研): 十勝川水系におけるバイカモ移植の試み
13. 長井真隆: エクスカーション地: 黒部川扇状地湧水地帯の水草の消長
14. 太田道人 (富山市科学文化センター): エクスカーション地: 氷見市乱橋池周辺の水生植物群落

懇親会の記録

富山県職員会館に場所を移して行われた懇親会は, 加崎英男会長の挨拶, 小路登一大会実行委員長の乾杯の音頭で開会した。水草調査の現状や自然環境の保全との関わりから, 水草をとりまく環境の現況調査の重要性が異口同音に指摘されていた。出された料理及び地酒はすべ

て、会員の胃袋の中に消えていった。

エクスカージョンの記録

富山県内の特徴的な水生植物の生育環境として、まず扇状地末端の湧水地帯の沢スギと、湧水の流れに生える水生植物を観察、採集し、次に自然環境がよく残っているため池で採集を行えるようにした。

目的地：

1. 富山県入善町杉沢の沢杉林(5万地形図名[三日市])
2. 黒部市栃沢及び生地(イクジ)の湧水河川と滑川市行田公園
3. 氷見市宮田のため池[富山]

日程：

- 9:00～9:50 入善町杉沢の沢杉
 10:15～11:00 黒部市栃沢、YKK 古御堂工場下流の湧水用水(沈水ノチドメ)
 11:10～11:45 黒部市生地神区、用水(ヒルムシロ類、ナガエミクリ、エゾミクリ)
 12:00～12:50 滑川市行田公園で昼食(バイカモ)
 14:30～15:40 氷見市宮田、乱橋池(ウキヤガラ、ヒメミクリ)・記念撮影
 15:45 閉会

16:15頃 J R 高岡駅(1号車)
 16:40頃 J R 富山駅(2号車)
 16:55頃 富山市科学文化センター(2号車)
 17:15頃 富山空港(2号車・羽田行 ANA 892 19:30に接続)

エクスカージョン参加者79名は、大型バス2台に分乗し、富山インターから高速道路を走り、県東部の入善町杉沢に向かった。杉沢は黒部川扇状地の末端部の海岸に近い地域で、特殊な立地条件のスギ林のある所である。薄い表土の下は川原を思わせるような円礫の堆積地で、所々に湧水が湧き出し、この水に潤されるようにスギ林が生育している。スギの種類はアシウスギで、「沢スギ」はここに生育するスギ林の当地の呼び名である。林内にはタブノキ、ユズリハなどが茂り、約40種類のシダ植物が生育している。2.67haの狭い一角であるが、標高が低いにもかかわらず伏状性のあるスギ林が生育している所は、日本の平野ではここだけである。参加者も、沢スギやシダ、沈水しているネコノメソウ類などに関心を持っておられた。

杉沢：国の天然記念物(昭和48年指定)、県の特別地区(昭和51年指定)。



2カ所目のポイントは、黒部市柕沢の湧水の流れる用水。水田地帯を流れる幅1m足らずの用水には、清冽な湧き水がとうとうと流れ、水中には花をつけたバイカモやミズハコベ、沈水型のノチドメ、ウキゴケ、ナガエミクリなどが生育していた。観察は、用水横の畦に一行になって行った。事務局のスタッフが用水の中に入り採集のお手伝いをする隣りで、参加者の数人が持参の長グツで用水に入り自らも採集された。

数km離れた黒部市生地の小さな用水路では、ヒルムシロ、オヒルムシロ、ナガエミクリ、エゾミクリなどが採集された。エゾミクリは県内では上市町の東種に続いて2地点目の発見となる。角野先生には、ヒルムシロとオヒルムシロ、ナガエミクリとエゾミクリの実物を前に、見分け方のポイントを教えていただいた。スペシャリストに地元の植物を見ていただけたことは、事務局にとっても貴重な成果の一つであった。

炎天のため、当初の開けた昼食場所を変更し、木陰のある滑川市の行田(ギョウデン)公園へバスを向かわせ、中華弁当とウーロン茶の昼食をとった。行田公園は、6月のハナショウブが有名な公園であるが、園の中央を流れる小川にはバイカモがあふれんばかりに繁茂し、ゲンジボタルも生育するなど自然環境の豊かなところである。参加者の皆さんは、弁当を食べ終わるやいなや採集や写真撮影にとりかかっておられた。ウキクサの小さな穴のような花と実のふくらみについての説明もあった。

再び高速道路を使い、最後の目的地である氷見市宮田のため池、乱橋(ミダレハシ)池に移動した。参加者は、北陸のむし暑さを苦にされる様子もなく、冷房のきいたバスから嬉々として外へ出られた。乱橋池には、ちょうど黄色い花をつけたコオホネ、白い花をつけたヒシ、ヒメミクリなどが多数生育しており、写真撮影や研究材料の採集にと余念がない姿があちらこちらで見られた。特に、ぬかるみへ胴長をはいて採集に入る方がおられたのには、その熱意に感服した次第である。

早めにお帰りになる方を、同行していた科学文化センターのワゴン車で先に最寄りの駅までお送りし、ここで記念撮影を行った。

エクスカージョン終了後、参加された方々から「満足した、良かった」という言葉が聞こえてきた時には、苦勞が一気に吹き飛んだ。また、同じ研究の視点や趣味を持った多くの方々と知り合いになれたことは、富山事務局にとって大きな財産となった。

大会事務局

実行委員長 小路登一

副委員長 長井真隆

事務担当 太田道人 坂井奈緒子

総会報告

I. 報告事項

1. 会員状況 (1995. 8~1996. 7)

新入会 14名

退会 4名

現会員数 328名

2. 1995年度事業報告

★会報発行 No.55~No.57 (計82ページ)

☆第17回全国集会 8月19~20日 佐賀市
(会報 56, 57号参照)

3. 1995年度会計報告

〈収入〉

前年度繰越金	-117,515
会費	1,226,000
別刷代金	103,000
バックナンバー売上	70,500
寄付	106,000
全国集會余剰金	50,000
利息	5,086
合計	1,443,071

〈支出〉

会報印刷費	1,051,612
会報発送費	95,560
封筒印刷費	20,000
通信費・送料	55,024
文具類	9,399
事務局謝金	10,000
合計	1,241,595

翌年度繰越金 201,476

4. その他

☆会報の学術刊行物認可

II. 審議事項

1. 1996年度事業

☆会報発行 58~60号

★全国集会 8月3~4日 富山市

☆会員名簿の作成

2. 役員改選 (1997~1998)

現役員が留任

3. 来年度全国集會開催地

事務局に一任(その後の交渉で、徳島県に決定)